

令和7年5月22日（木）18：30～
三川町子育て交流施設「テオトル」多目的ホール

◎ 学校運営協議会 委員委嘱
代表 佐久間 健洋 様
（三川中学校学校運営協議会）

※今年度の委員委嘱 36名
（内 再任者 28名）



◎ 教育長あいさつ 齋藤 正志 教育長
・学校運営協議会委員を引き受けていただいたことへの感謝。
・教育長会議に出席し、学校運営協議会の役割の重要性を再確認。
・三川町教育目標「ふるさと三川に思いをよせ、共に輝きつづける人づくり」と
目指す子ども像「三川の子ども」制定にともなう協力と今後への期待。

◎ 学校運営協議会の働きと今年度の日程説明
笹原 大 学校教育主査兼指導主事より

◎ 今年度の「熟議」テーマについて
「少子化が進む中、今後の学校教育を考える」
統括コーディネーターより



分科会場所 横山＝ステージ 東郷＝ホワイエ 押切＝ホール 中学校＝会議室

第1回 横山っ子ネットワーク協議会 議事録

◇ 学校運営方針の説明（齋藤 優子 校長）

○新年度になって6週間の学校生活から

子どもたちのすてきなところとして、素直な気持ちの子がいっぱいいること。朝の表情によく出ている。人懐っこい子が多くよく話をする。校長室にも話をしにやって来る。打てば響く子がたくさんいて、「横山しぐさ」の確認をした教師の話を聞いてすぐに行動に移せる反応のよさをもっている。おおらかさも感じられ、多様性を認め合う心もち、気に過ぎない許容する面をもっている。成長過程で子どもたちと一緒に考えていかなければならないこともある。一つ目は、休み時間の遊び方で怪我が多いこと。（保健室来室状況を見ると、これまで怪我が97人。病気27人だった。）二つ目は、言葉づかいについて、呼び捨てや相手を傷つける言葉で嫌な思いをしている子もいる。三つ目は、あいさつ・会釈の点である。「横山しぐさ」の指導でよくなってきてはいる。また、児童会のあいさつ運動に期待しながら見守っていきたいと考えている。地域の方々からも是非見守っていただきたい。

○令和7年度学校運営方針について

☆令和7年度より、第7次山形県教育振興計画「ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり」さらに、三川町教育目標「ふるさと三川に思いをよせ、共に輝きつづける人づくり」の制定により、明確な方向性が示されたと受け止めている。

☆学校目標「いのち輝き、たくましく生きぬく 心豊かな子どもの育成」とめざす子ども像「ここをこめて みんなでつくる よ・こ・や・まっ子」についてはそれぞれ昨年度と変更はしていない。

☆児童に身につけたい資質・能力で令和6年度「自分を振り返る力。対話する力。課題に気づく力。」であったものを、反省を生かし「振り返る力。対話する力。見通す力。」へと変えている。

☆「振り返る力」として、必要な情報を読み取りながら、教科の特性を生かし、自分の言葉で説明する。何ができて何ができなかったかを自分事として考えることができるようにしたい。

☆「対話する力」は、本校の目玉であり、相手の思いを受け止めながら（想像力を働かせて）聴くことができること。相手の意図を理解しながら、自分の考えを持ちまとめること、相手にわかってもらえるように伝え状況に応じて話すことをできるようにしていきたい。

☆「見通す力」は、解決までの過程を想像しながら仮説・分析・修正・調整等を繰り返し、粘り強く考え、理解したことを次につなげることが大切で、社会で求められる力につながることを考えている。

☆めざす子どもの姿として、めざす子ども像を受け具体的な子どもの姿を現わした部分では、「自己肯定感を持ち高め合う子」を「目標に向かって協議し認め合える子」に、また、「進んで学びを深めやる気を出す子」を「主体的に学び合い考えを深める子」に、それぞれ今年度変更している。子どもたちにわかりやすく伝えるため、始業式時には、「わくわくする気持ちと『対話』を大切に学ぼう。」「にこにこ笑顔あふれるあいさつ・会釈を広げよう。」「もりもり目標に向かって挑戦してやりぬこう」と伝えた。

☆危機管理と働き方改革に関わることとして、児童数の減少から登校班の人数減少や一人下校の回避。感染症・熱中症防止対策。不審者・クマ等出没への対応。自然災害への対応。Jアラートへの対応等々、家庭・地域との連携・協働が不可欠となっていることへの理解と協力をお願いしたい。昨年度より話題に上がっていた自然災害（地震・暴風・大雪・大雨・落雷等）への対応として、災害備蓄食品を購入することについては、PTA 総会で可決していただいたので早手配し近日中に納品となる。また、児童の登校時刻と職員の出勤時刻との関わりで、安全管理がとても難しい現状が見られる。登校時間帯を7：50～8：05までとすることへの理解と協力をお願いしている。

☆令和6年度の学校評価アンケートをもとに、さらに家庭・地域と力を合わせて力をいれていきたいこととして。進んで運動・体を動かす遊び。食事・生活リズムを整えること。興味・疑問について進んで調べることや、家庭学習・読書をする習慣。自分からおはよう・ごめんなさい・ありがとうを言えること。人の話に興味・関心を持って聞く姿勢。自分の考えや思いをはっきりと話す勇氣。地域防災・学校防災について進めていく。児童会・委員会活動を通して、児童が主体的に学校課題やアイデアを生かし絆づくりに挑戦し、家庭・地域と力を合わせてよりよりよい学校を築いていきたいと考えている。

☆働き方改革にかかわってよりよい日課表の在り方を検証していく。6時間授業の日を減らしながら、児童・教職員の放課後のゆとりを確保し、会議や教材研究の時間を確保する。児童の安全確保の点等を踏まえ勤務時間の再考（勤務開始を10分早める）についても考えていきたいが、家庭や教職員の負担増にならないように進めていきたい。また、定時退勤日をこれまで設定していなかったが、教職員の健康維持や意識改革、なにより、教員が笑顔で子どもと向き合えるようにするためにも検討していきたい。

☆児童数が減少する現状を踏まえ、地域との連携がより大切になっていく。児童・教職員の笑顔あふれ、みんなが幸せを感じられる学校づくりのためにご意見をいただきたい。



◇ 学校運営方針への質問や意見など（各委員の方々より）

- 言葉づかいについては、家に遊びに来た子どもたちを見ていて気になることがよくある。自分の家の子には注意するが、よその子にはためらいがある。遊びの場面では呼び捨てがほとんどである。
- 怪我が多いということが気になる。自己防衛力や生活習慣的に自分を守る力の衰えなのか。
→保健室来室者には、絆創膏を貼る程度のものも多く入っているが、ドッジボールで顔面に当たったということも何度かあり、遊び方の指導で回避できることも多い。目などに当たったりしたときなど念のために家庭に連絡し、状況に応じて受診してもらうことにしている。
- 友だち同士でのLINEやチャットでの言葉づかいや会話の内容が気になっている。朝のあいさつも声が低くなっているように感じている。
- 教職員の働き方で、教員の休憩時間がないことは以前から課題にあげられている。なかなか解決できない状況にあるようだが現状としてはどうか。
→子どもたちが学校で生活している状況の中で職員が休憩をとることはできない。目が届かない時間帯に問題も発生しやすい。極力、全職員で手分けしながら子どもを見守るようにしている。
- 子どもに接する先生たちに元気でいてほしい。そのために、教職員の働き方改革の点から学校行事の精選ややり方を変更していくことについては理解している。すべてを学校が背負う必要はない。
→「横山らしさ」を大切に、伝統的な学校行事等も継続可能な形で検討していきたい。この一年間は子どもの姿や家庭・地域の思いを受け止め生かしていきたい。
- SNSに関わる様々な情報によって、子どもたちの生活環境も大きく変わっている。特に、YouTubeへの関心が高く、言葉のキャッチボールに苦労することも多い。
- 少し前だと、自転車で遊びに出て外遊びをする姿があった。なかなか帰ってこないのが心配することもあったが今はあまり見かけない。外遊びをしないことを心配している。
- 自己防衛力の衰えについて話があったが、「見通す力」が足りないからであり、学校がつけたい力として考えていることは、家庭でも協力していきたい。
- 昨年、授業中の私語が多いという保護者の方がいた。「対話する力」との関係で、まず人の話を聞くことは大切。それが姿勢に表れる。
- 少子化に伴い教員数は増えることはないだろ。町独自としての教育支援員の確保に期待したい。
- 日没が早くなる時期もあるので、6時間授業の日を減らし下校時刻を早めることを目指してほしい。学級便りのスリム化も賛成である。

※ 学校運営方針については承認されました。

◇ 熟議テーマ「少子化が進む中、今後の学校教育を考える」について

- ・ネット社会になっての子育てや子どもたちの生活様式の違いによる課題は何か。
- ・孫にあたる子どもの生活をみて、親に心配していることを話すと、「今はそういう時代だから」と返ってくる。それ以上何も言えない。自分たちが子育てしていた頃とは大きく変わった。
- ・スマホに関わる問題が起きた時や起こりそうな時に、丁寧に子どもに関わっていかないと、これからの時代は心配になる。
- ・YouTubeをすべて正しいと考えている子どもが心配。
- ・以前は大人や友だちが情報源だったものが、今はYouTubeやネットである。ネット等の情報に簡単に騙されやすいという心配がある。
- ・「便利は怖い。」学校だけでのネット研修だけでは不十分。横山小PTAが今年計画している「親子でメディアを上手に使おう」という取組に期待したい。
- ・メディア社会への対応能力を小学生時代から付けていくことは大切。
- ・メディアは、あれば便利だし無くても支障ない物ととらえることができるかが大切。自己管理能力、自己調整力をやはり育てていくことが大事。

◇ 学校運営方針の説明 (大山 浩司 校長)

○令和7年度学校運営方針について

- ☆令和7年度の児童数は125人。(昨年度より16人減少)教職員数は26人。(同数)
- ☆授業日数は207日。昨年度より2日増やしている。増えた理由は、5時間授業を増やし1日当たりの負担を軽減したことによる。
- ☆学校教育目標の変更。「思い描く学校を共に創り上げる子ども」から、「思い描く学校を共に創る」とした。子どもたち・先生方・保護者・地域の人たちが一緒に関わりあいながら、学校を創る過程を大事にしていくことを目標にしている。
- ☆新たに「めざす子ども像」を2つ設定した。1つ目、「主体的に考え、行動する子ども」では、子どもたちに、「主体的」というのは、自分(たち)から、自分(たち)で、けじめをつけて、一生懸命、粘り強く挑戦することとだと話をしている。2つ目は、「相手を思いやり、協力する子ども」とした。「思いやり」「協力」には、相手の話を聞く、進んで話すことで「伝え合う」ことを大切にしていく。お互いの頑張りを認め合い、あいさつや気持ちのよい言葉づかいに注意していく。「思いやり」ということで次のことを話した。みんなが相手のことを考え、特別なことをするのではなく、小さなことでもよい。小さな親切を一日ひとつすることが大事だ。「ちょっとしたボランティアをみんなで」することをめざしていく。キーワードは「主体的」(けじめ・挑戦)「思いやり」「協力」の3つとした。
- ☆学校として育成したい資質・能力(教職員が子どもにつけたい力としての共通理解)を「主体性」と「協調性」にして、学級・指導部で取り組むことにしている。
- ☆学校目標を受けて、学校目標を達成するために、子どもの発達段階を考慮し、それぞれの学年が学級で話し合い、思いを込めた学級目標をつくった。(例)3年生「思いやり・けじめ・ねばり強さ・せきにんかん 24人の力で前へ」など。自分たちで立てた目標で学校目標に近づこうとしている。
- ☆4月末に行われた1年生を迎える会では、6年生が企画運営を主体的に行い、1年生が楽しめる会をつくってくれた。また、朝に上級生が登校した1年生の世話をしたり、縦割り活動の運営を主体的に進めてくれたりしている。
- ☆学習でも主体性と協調性の育成を意識した「主体的に学び合う授業づくり」に取り組んでいる。児童の「やりたい」「知りたい」を大切にした授業。対話「聞く」「話す」を大切にした授業。ICTを活用した学習活動の工夫。個に応じた指導の工夫(T・Tや学びの時間)を実践していく。
- ☆学校目標を昨年度までの思いを踏まえて変えたことで、「思い描く学校」の姿は時代とともに変化するが、その時代に合っためざす学校像・子ども像を設定することができるようになったと思う。
- ☆教職員の働き方改革について、全国的に過重な時間外勤務や心身の不調で休む教員の増加が課題となっている。本校の職員も朝早くから勤務時間を超えて頑張ってくれている。少しでも負担軽減のため、学級だよりの内容変更や月の終わりに発行するなどしていきたい。先生笑顔が子どもたちの笑顔につながることを理解していただき協力をお願いしたい。



◇ 学校運営方針への質問や意見など（各委員の方々より）

- 教職員の働き方改革の点で、今年度より、夏休み前の地域懇談会に職員は参加しない方向になるようだ。各地域や保護者で、主体的に取り組めるよう地域としても協力していきたい。
- 子どもが今年3年生になる。2年生後半から学習への主体性が見られるようになってきた。友だちとのかかわりについても問題事はあったが学校の指導がありがたかった。
- 通勤時間に学校の前を通ると先生方はすでに学校に来ているし、仕事終わりで学校の前を通るとまだ多くの車が止まっている。先生たちの笑顔が子どもにとっては一番なので、学級だよりのスリム化などは進めてほしい。
- 家庭での兄妹の様子を見ていると、下の子の面倒を見ることなどない。学校で、みんながやっているから下級生の面倒をみてやるということであっても、社会性を育てる点で大切なことだと感じている。
- 先日、足を怪我して登校することがあった。多くの子が手助けして教室に連れて行ってくれた。学校の指導が生きるとことに感謝したい。
- 4月に中学生になった子が、東郷小学校の前で先生たちに会えることを楽しみにしている。それ程、思いの詰まった小学校時代だったのだろうと感謝している。下の子どもたちは、家でも手伝いをしてくれるようになった。
- 自分の子どもは東郷小学校を卒業してしばらく経ったが、いまだに小学校で得た教えを守っている面が見られる。成長しても役立つことを小学校の時に身につけていただいたと感謝している。
- 3人の子どもがお世話になっているが、それぞれの子どもの個性にあった対応をしていただいてありがたい。
- タブレットの活用について、持ち帰っての活用方法について周知する手立てをとってほしい。
- 兄弟が同じ学用品（教材）を使うこともある。教材のリサイクルもあってよい。

※ 学校運営方針については承認されました。

◇ 熟議テーマ「少子化が進む中、今後の学校教育を考える」について

- 児童数については東郷地区が極めて減少していく状況あり心配している。入学児童が4人とか2人になった時に授業や学校の活動がどうなるのか。町が考えることではあるが、様々なところでも話題に上っている。具体的なことは示されていないが、他のところで話が進んでいる状況を考えると複式学級になるのか統合になるのか心配せざるを得ない。
- 配属される先生の人数が減らなければ、児童一人ひとりに目が届きそれはよいことであるが、1年生から6年生までの総人数が減ったコミュニティでのデメリットが予想される。複式学級になることで教員の負担も増すことになる。
- 町内会でも複式学級について話題にのぼったことがあり、経験者は楽しかったという人もいた。ゆくゆくはそうなるとも子どもの心が折れないように支える体制の方が大事だ。
- 子どもたちにとっては、テオトルや福祉センターでの学童として交流する機会や場があることは、児童数が減ってもありがたいことである。
- 児童数が減った時の登下校の問題等も心配になるし、保護者もPTA活動の負担が増える。
- コロナ禍以降、運動会が半日になったが、以前のような形には戻らないのか。町の意向が強いきもする。教員の働き方改革も影響しているのかもしれない。町内会としては、唯一の地域コミュニティの場であったので残念な気もしている。夏休み中のラジオ体操についても同様で、コロナ禍以降の取り組み方に残念さをもっている。
- 町内会対抗になっている現在の運動会であるが、町内会に子どもがいる世帯が少なくなり、運動会に参加すること自体が厳しい町内会もでてきている。元に戻せない理由もそこにある。
- 菜の花音頭など踊れる小学生は現在いない。以前は、練習など町内会の中で行ったりしてコミュニティの場となっていたがそれもなくなった。
- 児童数が減少している中で、同じ学年の保護者を知らない。親同士の繋がりも薄くなっている。

◇ 学校運営方針の説明 (渡邊 岳 校長)

☆昨年度は、150周年の記念事業を地域の方・保護者の協力を得て盛大に行うことができた。立ち会えた児童や職員にとってよい経験となった。150周年の終了後、児童も職員も自信をもって生活する姿が見られた。新年度を迎え、「新しいことに挑戦 みんなで知恵を出し合って 本気で取り組む」ことに邁進したい。

☆新しいことへの挑戦で、さっそくタイムリーな避難訓練を実施した。東京の立川市で起きた不審者事件を受け、鶴岡警察署の協力を得て、不審者に扮した警察官が昇降口から侵入した想定で行った。警察の方の迫力ある演技に圧倒されながら不審者への対応と児童の誘導という点を確認した。



☆1年生を迎える会でも、子どもたちが時間のない状況で、プロジェクターを使ったクイズやプレゼントに工夫を凝らし、昨年度とは変わった形で行ってくれた。

☆体育館脇のミーティングルーム(昨年度は学童で活用)をワクワクルームとして学習ができる部屋にした。主に不登校傾向にある児童や学級集団から一息つきたい児童の居場所として活用し、学びやすい環境として設定した。支援員の方が対応している。

☆学校目標は、「いのち輝き かしく やさしく たくましい 子どもの育成」を踏襲。物事を自分事とし、本気で学ぶ子ども(ワクワク)互いに認め合い、笑顔きらめく子ども(ニコニコ)進んで体をきたえ、元気なこども(イキイキ)としている。町の教育目標にある「多様性を認めて」を意識し、今年度、互いに認め合いを付け加えた。子どもたちは、この学校目標を受けて、自分たちの立てた目標に向け努力している。

☆学校経営の方針にあたっては、①学習指導要領や県教育委員会の方針・目標や重点をふまえて「新しい時代に対応した生きる力」の理念に基づいた経営を進める。②学校研究を中核に、学び合いによる学ぶ楽しさとわかる実感がもてる授業づくりを行い、確かな学力を育成する。③多様なかわりから絆づくりや居場所づくりを行い、自己有用感・自己肯定感を高める。④基本的な生活習慣を身につけ、主体的に運動に取り組む子どもを育てる。⑤保護者や地域、関係機関と連携し、安全・安心・安定した開かれた特色ある学校づくりに努める。⑥教職員は「チーム Oshikiri」として力を合わせ明るい職場づくりに努めると共に、効果的、効率的な教育課程を創造し、働き方改革を推進する。この中で、②については、一人で学ぶことも大切にしながら、みんなで学ぶことの楽しさを感じ取らせたい。③については、教室だけが居場所と考えるので、ワクワクルームや縦割り活動なども居場所として考えている。④については、三川町で決めた、低学年9時、中学年9時半、高学年10時の就寝時間を基本に生活リズムを守る努力をしている。

☆本校の特色ある活動ということで、「個別最適な学びと協働的な学びの推進」では、個を生かした授業とペア・グループ学習の日常化。TT学習の推進。朝学習を活用した学力向上対策。ICT機器の有効活用。家庭とも連携した家庭学習の推進。「縦割り・学級の絆づくり」では、縦割り班(清掃・ランチルーム給食・遊び)で関係づくりを行う。子どもの思いを大切にしたい児童会活動(押切小フェスティバル・スマイルタイム)の実施。体験・宿泊学習の実施。特に今年の修学旅行では、仙台・松島のまちづくりを学ぶ班別行動を取り入れた。「健康な体づくり」では、家庭と連携した生活リズムづくり。講師を招いた運動教室(水泳・器械体操・ダンス)を年それぞれ3回計画。校内持久走や相撲大会にも取り組む。「三川ふるさと学習」では、生活科・総合的な学習に地域素材や地域の人材を活かして単元開発と6年間を見通した計画で取り組む。地域ボランティア制度を今年度も実施する。

☆今年度より、「押切スタンダード」の実施を行っている。「あいさつ」…明るい声で、相手の目を見て。「へんじ」…話をよく聞き、しっかり反応。「あとしまつ」…整理整頓、使う前よりきれい。合言葉は『凡事徹底』である。

◇ 学校運営方針への質問や意見など（各委員の方々より）

- 新しいことへの挑戦は大変なこともあるだろう。修学旅行の班別行動など心配されることもある。
→校長として赴任し3年目になる。コロナ明けでの1年目。2年目は150周年。2年間を経験した上で、時代にあった挑戦をしたい。地域の方にも背中を押していただいた。また、特に、若い教師が意欲的に挑戦する意思を示してくれている。その思いも汲んでいる。
- コロナ禍の3年間で、地域も学校も削減できることとやはり必要だと思ふことがある。その見極めをしていくことが大事。
- 経営の方針を聞いていて、押切小のレベルアップを感じている。話にあった避難訓練も、子どもが帰ってすぐに話してくれた。校内にはあるが、通学路に防犯カメラを設置していただくことも考えてほしい。
- タブレットを活用したカウンセリングや三川町の中にフリースクール的な居場所がないことは残念だし、診断名がなくても利用可能な居場所があるといい。
- 学級だより等について、特に説明がなかったが今年度の方向性を聞きたい。
→これまでA3版で発行していた担任もいた。担任が時間をかけ発行に追われる面もあった。働き方改革の点で、共通性をもたせ、QRコードを活用し映像をアップするなど時代に合わせた方向性に変化させるよう指導している。
- 子ども一人ひとりを大切にした教育をしてくれていることがありがたい。
- 新しいことへの挑戦は、子どもたちの変化と成長につながっている。先生たちの負担にならない程度に進めていただきたい。
- 学校の中に「ワクワクルーム」ができとてもよいことだと感じている。不登校傾向の児童にとって、子どもたち同士による働きかけは必要なときもあることと思う。地域での居場所を考えることも必要だし学校からの情報発信もあったらよい。
- ここ数年で学校や授業が変わってきた。よいことと考えているが校長が変わるとペア学習やグループ学習、縦割り活動がなくなることを心配している。
- 特別支援児童や不登校児童に対しての支援を学校だけが行う時代ではなくなりつつある。子どもの多様性にあわせて、事業所の協力や支援センター的役割を担う機関の設置や活用も望みたい。
- 学級だよりのデータ化による配信があると助かる。

※ 学校運営方針については承認されました。

◇ 熟議テーマ「少子化が進む中、今後の学校教育を考える」について

- ・少子化に伴い、学校の形もこれから変わってくることが予想される。興味・関心のある学習を重視するようなことも
- ・ひところ前は、「子育て支援の町三川」で移り住んできた人もいた。どこの市町村でも今はある程度の支援を行っている。以前のような魅力がなくなっている。三川の小学校に入るとこんな教育が行われているというような魅力が欲しい。また、高校のことを考えると自転車通学であり、三川に住む利点が失われている。



- ・押切小で昨年から山形大学と関連が生まれ、慶応先端研ともつながり、花びらを使った肥料について学ぶことになった。特色ある学校への期待は広がる。
- ・遊佐町や庄内町で統合の話が出ている。三川町はいつまで頑張ることができるのか心配をしている。
- ・学校を残すのであれば、学校だけでない機能を集約させる必要もある。
- ・致道館中学の受験に関わる質問。

◇ 学校運営方針の説明（新館 啓一 校長）

☆今年度、65名の新入生を迎えた。全校生徒196名でスタートをきっている。学級数は、3学年とも2学級となり、特別支援学級3学級を加えて9学級。教職員数は、35名である。☆学校目標は、「心豊かで賢くたくましい生徒の育成」～自律・共生・貢献～を掲げている。創りたい学校として、「学びと成長、そして笑顔のあふれる学校」～学校、家庭、地域との連携協働による『魅力ある学校づくり』の推進～としている。魅力ある学校づくりは、令和3年度から2年間にわたって国の委託を受けた「魅力ある学校づくり事業」を引き続き継続して行っている。

☆今年度の重点には、1.「魅力ある学校づくり」を推進する。2. 生徒にとって学びのある授業を創る。3.「寛容・共生・貢献」の心を育む教育活動を推進する。4. 高い同僚性を大切に、研鑽し合う教職員集団をめざす。ことを掲げた。

☆重点1の「魅力ある学校づくり」を推進するについては、①生徒の「居場所づくり」（教師主導）と「絆づくり」（生徒主体）を中心に取り組む。②学びのユニバーサルデザインを推進する。③構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングを活用した活動の実施。④教育活動における生徒の主体的な取り組みを支援する。

☆重点2の「生徒にとって学びのある授業を創る」については、①生徒指導の4つの視点（自己存在感。共感的人間関係。自己決定の場。安全・安心な風土）を大切に授業を推進する。②探究の視点を取り入れた総合的な学習の時間を構築する。③協働的な学びを通じた新たな気づきや理解を深める授業づくりを推進する。④ICT機器の活用を図り、生徒の力を最大限に引き出す学びの実現に力をいれる。

☆重点3の「寛容・共生・貢献」の心を育む教育活動を推進については、①生徒会、学年生徒会の取り組みを大切に、思いやりの心、共生の心を育む。②地域とのかかわりを通して、地域への誇りを持ち、地域に貢献する心情を高める。2年生の職場体験では、30の事業所から引き受けていただいている。③行事等の振り返りを通して、自分の成長と仲間の大切さを考えさせる。

☆重点4の「高い同僚性を大切に、研鑽し合う教職員集団をめざす」については、①校外研修への積極的な参加と活用により、教師の専門性と自己の資質向上を図る。②校内研修の実施やOJT（職場内訓練）の活性化により、教育課題への組織的な対応に努める。③生徒に寄り添い、支え、より深く理解しながら、信頼関係の構築に努める。④学校における働き方改革を推進する。

☆「育てたい生徒」1. 自他のいのちを大切に育てる生徒。2. 夢や希望の実現に向け、努力する生徒。3. 知恵を育み、たくましく生き抜く生徒。4. 人とのかかわりと助け合いを大切にしながら、学び続けていく生徒。を掲げている。

☆三川中10のコンピテンシー（育てたい資質・能力）をめざす。1. 知識・技能。2. 情報収集能力。3. 分析力。4. 判断力。5. 表現力。6. 協働する力。7. 自己肯定感。8. 論理的思考力。9. 批判的思考力。10. セルフマネジメント力（自己管理能力）

☆令和7年度の教育活動について、1. 自律・共生・貢献をテーマに教育活動を展開する。2. 日課表の変更では、昨年度から、6時間授業を減らし、放課後の部活動時間の見直しを行ってきた。今年度は、冬期間中は安全面を考慮し、常に下校時間が16時45分となるよう金曜日も5時間授業にする。3. 体験活動による地域学習、キャリア教育の推進。4. ボランティア活動や地域活動への参加。5. 持続可能なスポーツ・文化活動体制の確立に取り組んでいく。

☆生徒会の活動を紹介すると、生徒会スローガンは『「共挑』（きょうちょう）～共に創ろう無限の未来～』なかよし3原則（いじめをしない！いじめをさせない！いじめを許さない！）や「三川中のSNSの決まり」①夜11時以降は他の人と関わる利用はしない。②悪口や個人情報を書かない。昨年度同様に生徒会で可決した。

◇ 学校運営方針への質問や意見など（各委員の方々より）

- 近年、多様性が尊重される中であって、三川中の生徒も職員も「共生」を大事に考えてとてもよいことである。アンケートの結果を見て、「学校が楽しい」とか自己存在感や自己肯定感などに関わる結果が高いことに驚いている。
- 三川町教育目標にある「ふるさとに学び、ふるさとを想う子ども」や中学校の方針にある地域との関りについて、小学校はともかく、中学校では特別な意識で取り組まないと「書いた餅」的になってしまう。
- 三川ボランティアサークル「来夢来人」の中学生登録者数が38名と多い。先日、青山町内会で行われた青山神社大祭へも参加し、縁日を担当し地域の祭りを盛り上げてくれた。
- 地域活動についても希薄な時代になってきた中で、「自律・共生・貢献」を掲げて教育活動に取り組んでいることを評価したい。荒れた時代なども知っているが、今の学校の雰囲気はよい。
- 最近の教育では怒ることや順位付けが否定されたりすることもある。指導も難しい時代。
- 部活動の地域移行が進んでいて、以前のような部活動顧問と生徒との信頼的人間関係が希薄になりつつある。人数的にもチームスポーツの衰退がみられ、今後の部活動運営が困難になりつつある。
- 中学生になって「コミュニケーション」という言葉がよく使われてきている。グループワークを大切にした教育ということの評価したい。社会にでて会社勤めをするようになれば生きる力となる。
- 学校でも、部活でも厳しい指導がなくなってきている。自分の子を見て感じることで「打たれ弱いのかな」という心配をしている。高校受験などを控え心が折れなければと思っている。

※ 学校運営方針については承認されました。

◇ 熟議テーマ「少子化が進む中、今後の学校教育を考える」について

- 致道館中学校が開校し、リーダー的存在の子が減ったりすることでの弊害等はないのだろうか。→何人抜けたかはわからないが、リーダーは育つし、育つような教育を実践したい。
- 「三川中学校に入学してよかった」といわれるような選ばれる学校にしていくことが大事。
- 子どもの数が少なくなったことで悪いことだけではない。「貢献」ということばがあったが、少人数になったから貢献する機会も増えた。少子化は止めようがない。その中で大切なことは、いろいろな人がいて、いろいろな考えや文化があり、そこで自分を見出せることが重要になってくる。
- 鶴岡市にはなったが、朝日地区の人たちの「郷土愛」や学校を誇りに思う気持ちは強い。生徒数は減少しているが、三川もそのようになってほしい。大人になっても気持ちは「密」。
- 児童数や生徒数の推移表を次回の協議会で提示してほしい。
- 少子化が進んでも、魅力ある三川中、郷土愛にあふれた中学生を育成していく。

